

## FP 1: 第1回パートナー会議の概要草案

東アジア・オーストラリア地域フライウェイにおける  
渡り性水鳥の保全及びその生息地の持続可能な利用のための  
パートナーシップ  
インドネシア・ボゴール 2006年11月6～9日

### 第1回パートナー会議の概要

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの発足式及び第1回パートナー会議が、2006年11月6～9日にインドネシアのボゴールで開催された。主催は、インドネシア林業省の森林保護・自然保全総局である。

パートナーシップ発足式と第1回パートナー会議に出席したのは、豪州、インド、インドネシア、日本、ミャンマー、フィリピン、韓国、ロシア、シンガポール、タイ、米国の各政府と、ボン条約事務局、ラムサール条約事務局、豪州シギ・チドリ類研究会、バードライフ・インターナショナル、国際ツル財団、日本雁を保護する会、国際湿地保全連合（WI）、日本野鳥の会、世界自然保護基金（WWF）といった各機関である。中国、カンボジア、国際自然保護連合（IUCN）、国連環境計画（UNEP）は欠席した。

11月6日に行われたパートナーシップ発足式は、記念式典として成功裡に終わった。豪州、インドネシア、日本、ミャンマー、フィリピン、韓国、ロシア、シンガポール、米国、ラムサール条約、ボン条約、豪州シギ・チドリ類研究会、国際ツル財団、WI、WWFは、豪州・米国政府とWIが提案した文言修正に合意した上で、パートナーシップ文書を承認した。IUCNからは、承認の旨の書面が事務局に提出された。

第1回パートナー会議では、パートナーシップ議長を持ち回りとし、副議長が翌年の議長となることが合意された。パートナー団体は、最初の2年間のパートナーシップ議長として豪州を、1年目の暫定の副議長として韓国を選出した。

パートナー団体は、パートナーシップ発足から少なくとも5年間は、毎年パートナー会議を開催することに合意した。

パートナー団体は、フライウェイ重要生息地ネットワークの参加地の指定や、「アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略」の下で設置されているツル類、シギ・チドリ類、ガンカモ類の各重要生息地ネットワーク参加地の移行について、取り決めに採択した。

パートナー団体は、草案を元に実り多い議論を行った上で、「実施戦略」を採択した。パートナー団体は、実施戦略に示された成果を実現するために2007年に実施することになる広範な活動の概要をまとめた。

パートナー団体は、パートナーシップの運営には事務局が不可欠であることに合意し、重要な事務局委任事項と必要な予算について合意した。

## FP 1: Draft Summary of the First Meeting of Partners

パートナー団体は、パートナーシップの運営資金を提供する各国政府から持続的な事務局が任命されるまで、豪州が暫定事務局を続けることに合意した。事務局運営資金を提供しているのは、豪州、韓国、日本、米国の各政府である。

パートナー団体は、「アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略」の下で設置されたシギ・チドリ類、ガンカモ類、ツル類の各ワーキンググループを継続させることに合意した。ただし、パートナーシップの目的に添って、活動事項を修正することとする。各ワーキンググループは、活動事項の修正案を作成し、第2回パートナー会議に提出して検討を受ける。

パートナー団体は、アジア太平洋地域渡り性水鳥保全委員会（MWCC）の下で、鳥インフルエンザワーキンググループがパートナーシップの恒久的ワーキンググループとして設置されたことを歓迎した。

パートナー団体は、2007年末までにパートナーシップのコミュニケーション計画を策定するため、臨時ワーキンググループを設置した。

パートナーシップは、慎重に検討した結果、パートナーシップの付録IIIに4つの科の海鳥を加えることに合意し、次回会議で海鳥ワーキンググループの設立案を検討することに合意した。

パートナー団体は、パートナーシップに関する年次活動報告の書式を作成するため、タスクグループを設置した。パートナー団体は、報告がパートナー団体に過度な負担とならないよう、パートナーシップの成果を示す情報収集に集中すべきであることを強調した。

パートナー団体は、2007年後半に次回会議を開くことに合意した。議長が、中国とシンガポールに次回会議の主催を打診することとなった。

議長は、全参加者に対し、会議中の熱心な議論に感謝すると述べた。また、インドネシア政府の林業省森林保護・自然保全総局が会議を主催したこと、さらにWI及び日本野鳥の会が並々ならぬ支援を行ってくれたことにも感謝の意を表した。